



鷹野雅生 議会速報

GASHIN

Vol.6 2013.6

〒614-8011 京都府八幡市八幡垣内山 47
Tel 075-981-2496 / fax 075-981-5896

はじめに

皆さん、おはようございます。

八幡みどりの市民の鷹野雅生です。

今回一番で質問させていただき、光栄に存じます。

それでは通告に従い質問をさせていただきます。

この号の内容

- 1** はじめに
- 2-7** 観光の取り組み
- 8-12** 子育て支援施策

"GASHINとは"

GASHINの心は鷹野雅生の雅を使い、私のいち早いお知らせの「信」であり「真」を述べ、私の「心」を語らせていただきたいと思います。

観光の取り組み

1つ目の大きな柱は、観光の取り組みについてお伺いいたします。

私は今回も観光活性化について市長並びに理事者のお考えをお伺いいたします。

日本の将来を考えた時に世界からどれだけ観光客を呼べるかが大きな課題とされています。

申すまでもなく京都は日本観光の中心地であり八幡市もその一翼を担う事になります。

だからこそ積極的に観光開発に取り組む必要があると考えます。

質問

① スマートフォンを活用した観光情報の導入について

⇒ 駅前の観光案内所も新しくなり春の背割り堤の桜のシーズンも乗り切とうまく運営され軌道に乗ってきたところだと思います。

観光協会では、観光ガイドマップを初め数々の観光関連パンフレットを配布され、また、ホームページもリニューアルされアクセス数も多くなり積極的な情報発信に取り組まれています。

着々と充実した取り組みを展開していることを喜ばしく思っています。さらに充実した情報発信に向け、以前質問をさせていただきました際の答弁では「スマートフォンを活用した観光情報の発信は有効な手段の一つだと考えております。導入に向けて検討する」と言われていましたが、現時点での状況を教えて下さい。

② 情報の充実について

⇒さらなる情報の充実を図るため、次は SNS(ソーシャル ネットワーキング サービス) のソーシャルメディア(ツイッター・フェイスブック)等の導入が必要ではないでしょうか？

③ 京阪八幡市駅前活性化の取り組みについて

⇒八幡市駅は市内外への交通ネットワークの基点であり、石清水八幡宮や淀川河川公園、背割堤地区への最寄りの駅であるなど交通、観光の拠点としての役割を果たしていますが現在、駅前の空き店舗が増えていて駅を降りると大変寂しい状態にあります。

観光の活性化が駅前の再開発に繋がっていくような具体策を展開していただきたいと願っていますが、京阪八幡市駅を活性化する為にどのような取り組みを考えておられますかお考えをお聞かせ下さい。

観光の取り組み

答弁

*** ①スマートフォンを活用した観光情報の導入について**

⇒スマートフォン用の観光情報の発信につきましては、現在観光協会において本年度中の
実用化に向けて取り組まれております。

*** ② 情報の充実について**

⇒ソーシャルメディアは誰もが簡単に参加できるインターネット上に構築された情報発信シス
テムでありまして、個人と個人や組織間の情報発信がリアルタイムに連動していく新し
いメディアでございます。

尚、ソーシャルメディアの導入にあたってはルール(利用方針)の策定と使い方や情報発
信する場合、観光協会の職員及び、会員のスキルをアップする活動が必要となります。
このことから費用や運営体制等の課題につきまして、総合的に研究して参りたいと考え
ております。

*** ③京阪八幡市駅前活性化の取り組みについて**

⇒本年7月中旬から8月末までJR東海において「そうだ 京都へ行こう！」の観光キャンペー
ンを打ち出され石清水八幡宮が取り上げられており、この期間には本市に通常より多く
の観光客がお越しいただけるものと考えております。

このことから、商工会では駅前空き店舗を改修し、観光客へ湯茶の提供、イベントの開催
や市内事業者による商品販売などの取り組みを計画されております。

また、観光協会においては空き店舗前に大型の観光案内パネルを設置され石清水八幡
宮、松花堂庭園等の紹介や男山ケーブルカーへの案内等を計画されており、これらの
取り組みに対しまして支援することにしております。

観光の取り組み

次に私は、見たくなる八幡、来たくなる八幡、住みたくなる八幡をスローガンに掲げて本市の観光活性化を訴えて参りましたが、観光を考える時にお隣の宇治市にも学ぶべきことがあると思います。

宇治市には平等院があり源氏物語があり宇治茶というブランドがあります。

平等院と宇治茶は長い年月をかけて作り上げてきたブランドですが、源氏物語は 2008 年の源氏物語千年紀をきっかけにして新たなブランドに育ててきたものだと思える事ができると思います。

つまり、山や海のように初めから存在するもの以外はアイデアと申しますか、知恵に年月を加えて創り上げ、いつしかブランドをして育てていっているのです。

観光とは光り輝くポイントを作りだす知恵と努力が欠かせません。

その一つとして私は八幡市の背割堤を桜の咲いた時だけ褒めたたえるのではなく春夏秋冬、一年を通して美しいと見る感性を大切にして観光スポットとして活用することを提案して参りました。

わが八幡市を観光面を見た時にトップブランドと言いますか錦の御旗になるような存在といえば石清水八幡宮であり、神社への表玄関ともいべき京阪八幡市駅とその周辺の大膽な見直しを図る事を提案したいと思います。ちなみに京都人は京都の観光地へ行かない。京都の祭りに参加しないといわれますがこのことは八幡市にとっても言える事だと思います。

用事のある人以外改まって神社へあがって行かないでしょうしあのケーブルカーに乗る人が年間どれくらいいるのでしょうか。私はいつも思うのですが八幡市駅からケーブルカーはほとんど見えません。京阪電車を利用する人にとっても八幡市駅から山頂までのケーブルカーがあることすら知らない人がいるかもしれません。

これは私としても京阪電鉄側に改めてケーブルカーの新たな位置付けと活性化を提案すべき事案だと考えますがいかがでしょう。

なんと申しまして京都におけるケーブルカーの存在は宮津の成相山と八瀬、鞍馬、そして石清水八幡宮ですが知名度は残念ながら石清水八幡宮が一番低いのではないのでしょうか。

そこで八幡市のトップブランドである石清水八幡宮に関連してお伺いいたします。

質問

① ケーブルカーの存在アピールについて

⇒八幡宮への最も重要なアクセスの一つケーブルカーの存在アピール

② 八幡市としてケーブルカーの魅力を高める事について

⇒八幡宮へは自家用車で行くことも出来ますが住宅街を通らなければ

ならず安全面から考えてもケーブルカー利用の方がいいと思います。

京阪電車からわかるように看板の設置や八幡宮と縁が深い能楽を活用

した駅の案内や発車案内をするなど工夫を凝らして魅力を高めたりして

はいかがでしょう。ケーブルカーは京阪電鉄だから市は知らないという

のではなく市としての考えをお聞かせ下さい。

美しい春夏秋冬
光輝く観光活性化
欠かせない知恵と努力

観光の取り組み

答弁

*①ケーブルカーの存在アピールについて

⇒男山ケーブルカーについてでございますが、春号・秋号の広域観光PR紙の掲載に加え、本年は夏号においてもアピールをして参りたいと考えております。

*②八幡市としてケーブルカーの魅力高める事について

⇒ケーブルカーの魅力につきましては、京阪電鉄の営業面からも有意義な取りくみでありますことから、京阪電鉄に対しましてどのような取り組みができるか、協議をして参りたいと考えております。

次に展望台の活用です。

質問

① 展望台の自動音声設置について

⇒山頂について展望台から北を望むと雄大な広がりにはない将に絶景です。展望台から見る三川合流のダイナミックな展望や眺望などを自動音声で紹介する装置の設置は考えられないでしょうか。

ケーブルカーの質問でも申し上げました能楽を取り入れた案内など、ちょっと工夫をすれば、他市と違った雰囲気が出せるのではないのでしょうか。

② 谷崎潤一郎の歌碑について

⇒現状ではなかなか難しく、説明文も原文と対比してわかりにくいです。一般の観光客でも理解しやすい表記はできないでしょうか。

③ 歴史の中で歌われてきた八幡の歌の活用について

⇒八幡市の歴史の中でその時代の歌人の多くが石清水八幡宮など八幡の歌が読まれてきました。つまり歌人にとって歌にしたくなる風景や光景が沢山あると思うことだと思えます。

観光において数ある歌の活用も検討してはと思えますがお考えをお聞かせ下さい。

観光の取り組み

答弁

* ①展望台の自動音声設置について

⇒展望台の活用についてでございますが、展望台の土地や建物等は全て個人が所有されていること、展望台下に民家もありますことから、今後の検討課題とさせていただきますと存じます。

* ②谷崎潤一郎の歌碑について

⇒展望台の歌碑についてでございますが、現在設置されております原文の説明文につきましては設置時に関係部署と協議の上設置されておりますので、現状でご理解いただきたいと存じます。

* ③歴史の中で歌われてきた八幡の歌の活用について

⇒次に歌人の歌の活用についてでございますが、石清水八幡宮を初め、松花堂、安居橋、円福寺などの歌を活用しました観光ルートの設置ができないか、観光協会等と協議をして参りたいと考えております。

再質問

① 観光客を増やす為の今年度の知恵とアイデアについて

⇒現在、本市への観光客は170万人ということで、お隣の宇治市に来る観光客が500万人という事を考えれば八幡市の観光資源からしてまだまだ伸びる余地があると確信しております。

地域が観光地として魅力あるものになり、そして継続的に発展出来る事が重要であります。これからの観光は地域にある宝物・地域の魅力を再認識し、また、新たに発見する楽しみを持ちたいと思います。

一方で他の地域の人に感動してもらったり満足してもらったり喜んでもらえたりしてそこから生まれる地域の愛着や誇りをいかに持っていくことが観光の本質だと考えます。

地域を知ること、育てること、さらに誇れること、そうなれば結果としてそれがブランドではないでしょうか。

施政方針にもあるように今年度、観光復興については観光案内所を拠点に観光協会との連携を強化し、さらなる観光誘客に向けて取り組まれると伺っております。

このような中、観光客を増やすためには知恵とアイデアを凝らさないと観光客を増やせないと思いますが、今年度はどのような取り組みをお考えでしょうか。

再質問

② ソーシャルメディアで発信することについて

⇒今年4月に八幡市観光協会が一般社団法人に移行されました。

八幡市観光協会の新しいシンボルマークも出来ました。

さらなる観光誘客に向けて観光案内所を起点に、八幡の観光資源を市内外へ発信して行くことが大切だと考えます。

先程も観光資源について何点か質問させていただきました。

八幡にはまだまだ隠れている観光資源がたくさんあります。

八幡の隠れた観光資源をアピールしていくためにソーシャルメディアで発信することによって大勢の人により広く情報が伝わり発信する価値があると考えます。ソーシャルメディアで発信することについてはどのようにお考えでしょうか。

再質問 答弁

* ①観光客を増やす為の今年度の知恵とアイデアについて

⇒観光誘客の取り組みといたしましては、例年、春と秋に発行しております広域観光PR紙を今年はJR東海の観光キャンペーンにより、多くの観光客が八幡市にお越しただけのことから、夏号の発行を予定しています。

また、背割堤は、桜のシーズンだけではなく四季を通じて観光客に来ていただける様に観光パンフレットの作成に取り組むこととしております。

* ②ソーシャルメディアで発信することについて

⇒八幡の隠れている観光資源をツイッター、フェイスブックなどのソーシャルメディアで情報発信することは大変有意義ではありますが、先程もご答弁させていただきましたとおり、導入費用や運営体制などの課題につきまして、総合的に研究して参りたいと考えております。

【要望】

観光振興をより充実させるためには観光協会への支援が大切だと思います。
より積極的な支援をしていただけることを要望いたします。

子育て支援施策

2つ目の大きな柱は子育て支援施策についてお伺いします。

先週、6月6日の朝刊に厚生労働省の人口動態統計がでておりました。

出生率は1.41 前年度よりほんのわずかに上っていました。

赤ちゃんの出生数、生まれた数が過去最少を更新し少子化が進んだというショッキングな報告でありました。

人口減少の到来に向けてその減少幅をいかに少なくするかが今度の八幡市の大きな課題であります。しかしその対策は、一朝一夕にできるものではないため、布石を少しでも早い時期から打っていかねばならないと、堀口市長からお伺いしました。

少子化の進展に伴い、2040年には全都道府県で現在より人口が減少し、また、全都道府県で65歳以上の割合が3割を超える見通しであるとされています。

因みにこの人口推計で八幡市は2040年で61,108人、現在と比較しますと約17%も減少するとされています。また、60歳以上の高齢者の方々が多くなり、逆ピラミッド型の人口構成になると思われます。これはあくまでも推計ではありますが人口減少及び、高齢化は間違いなくやってくると考えられます。

また、市長のおっしゃるとおりその抑制策は1年や2年の短期間では到底できません。その対策を講じていただきたいと願い、今回一般質問のテーマとさせていただきます。

質問

① 認定こども園の概要について幼稚園と保育所の相違点について

⇒本年4月京都府で初めての認定子ども園として本市の有都子ども園が開設されました。

子ども園とは、就学前の子どもに幼児教育・保育を提供し、また、地域における子育て支援を行う機能を兼ね備えている施設であります。

八幡市でも地域に根差した、また、昨今の核家族化、地域コミュニティの希薄化の対応策として、この認定子ども園の開設を増やしていくことが大切であると思いますが、具体的な相違点いわゆるメリットを教えてください。

② 有都子ども園の今の現状について

⇒有都子ども園となり2カ月あまりたちましたが環境変化により子どもや保護者に何らかの変化や影響はありましたか教えてください。

③ 有都子ども園を現在どう評価されているのか教えてください。

④ 有都子ども園の他に認定子ども園を開設する場合について

⇒認定子ども園の中には幼保連携型・幼稚園型・保育所型・地方裁量型とありますが市内で開設するとなれば有都子ども園と同様、幼保連携型をお考えなのかお聞かせ下さい。

答弁

***① 認定こども園の概要について幼稚園と保育所の相違点について**

⇒子育て支援策についてのご質問にお答えいたします。

まず認定子ども園のメリットと致しましては、保育時間が柔軟に選べることや、就労の有無がかわらない施設利用、異年齢児との関わりや交流がもてることなどのほか、施設設備や職員体制の充実と子育て支援機能の充実などがあげられます。

***② 有都子ども園の今の現状について**

⇒子どもや保護者の方への現状、(変化・影響)につきましては4月から視察が増えた以外は、特に大きな変化や影響はございません。

***③ 有都子ども園を現在どう評価されているのか教えて下さい。**

⇒これまでの合同保育の蓄積や地域の特性を生かしつつ、こども園としての機能を適切に発揮しながら豊かな保育実践を行っていくことが期待されております。

そのため、京都府ではじめての認定保育園としての名に恥じぬよう、今日的な役割を明確にしながら、質の高い幼児期の教育・保育の総合的な提供を行い、その社会的責任を果たしてまいりたいと考えております。

***④ 有都子ども園の他に認定子ども園を開設する場合について**

⇒平成 27 年4月施工予定の子ども・子育て支援新制度により、子ども園としての機能を適切に発揮しながら幼児期の教育・保育の質を維持・向上させるためには、幼稚園機能と保育所機能を一体的に発揮できるタイプの幼保連携型の認定こども園以外の選択肢はないと考えられますが、本市における今後の子ども園の意向につきましては、ニーズ調査や子ども・子育て会議での審議を踏まえた検討が必要であると考えております。

子育て支援施策

次に子育て世代をいかにして八幡市に迎え入れるのかお伺いいたします。

人口減少が遠くない将来やってきます。

しかし、地方自治体は将来にわたってサービスを提供しなければなりません。八幡市の現状を見てもみると市民税の所得割が歳入の根幹となっております。という事は、少子高齢化になると八幡市の歳入の根幹をなす財源が縮小されることが予測されます。

八幡市では全国でもあまりない待機児童ゼロの市です。他の市町村では待機児童の解消が大きな課題となっておりますが、八幡市ではこれまでの充実した施策のおかげでその問題は生じていません。そこでお伺いいたします。

質問

- ① **子育て世代を積極的に迎え入れる策があれば教えてください。**
⇒子育て世代を本市に迎え入れるために八幡市には待機児童が無い、よそにはいっぱいあるけど八幡市にはない。という事をPRし、子育て世代を本紙に積極的に迎え入れる策を講ずるべきだと思います。
- ② **第三子育て支援センター設備事業の設計について**
⇒子育て世代施策の充実として第三子育て支援センター設備事業の設計を当初予算で計上をされてますがその進捗状況を教えてください。
- ③ **その他に八幡へ子育て世代が住みたくなるような施策があれば教えてください。**

次に幼稚園、保育所の今後のあり方についてお伺いいたします。

少子化が到来することで、民間の幼稚園、保育所の経営も苦しくなることが想定されます。民間、公立が競合するようなこともあり得ます。そこでお伺いいたします。

質問

- ① **現在の幼稚園、保育園の定員と空き状況について**
⇒民間、公立ともに合計で構いませんので教えてください。
- ② **今後の公立幼稚園、保育園のありかたについて**
⇒民間と競合しないで、また、待機児童もださないような統廃合についてお考えはありますか教えてください。

答弁

***① 子育て世代を積極的に迎え入れる策があれば教えてください。**

⇒本市の子育て支援施策を広く情報発信することは大変重要なことだと考えております。子ども・子育て支援新制度により、今後はそれぞれの世代のニーズに合わせた情報発信や子育て支援を提供していくことが必要となってくると考えております。

***② 第三子育て支援センター設備事業の設計について**

⇒現在、建予定地について土地所有者との協議を進めておりまして、さらに設計事務所との建設プランについても協議しているところでございます。

今後、協議が整い次第、土地購入費と建設費の予算を上程してまいりたいと考えております。

***③ その他に八幡へ子育て世代が住みたくなるような施策があれば教えてください。**

⇒子育てしやすい街とは、交通の利便性やマンションなどの住宅の供給量の他、こどもが安全で健康的に成長できる自治体が選ばれているようです。

さらに子育て環境では、子どもの年齢や親の働き方などによって異なりますが、出産前後の支援施策、保育園入園の可能性、乳幼児の医療費をいつまで助成してくれるか、延長保育や病児、病後児保育など子育て支援に熱心かどうかなどについてチェックされておるようです。今後設置予定の子ども・子育て会議での審議を踏まえ、子ども・子育て支援事業計画の策定の中でその方策を検討してまいりたいと考えております。

幼稚園・保育所の今後のあり方について

答弁

***① 現在の幼稚園、保育園の定員と空き状況について**

以下の通りです。

幼稚園・保育園	定員数	園児数	差
公立幼稚園	764人	519人	245人
民間幼稚園	915人	市内426人・市外359人・計785人	130人
公立保育園	665人	500人	165人
民間保育園	990人	975人	15人
京都市への広域入所	15人	13人	2人

***② 今後の公立幼稚園、保育園のありかたについて**

⇒幼児教育及び保育のあり方と施設運営の施設効率化とのバランスをどのように図るのかという全体的な視点も必要であると考えております。

子ども・子育て支援新制度に基づくニーズ調査を行い、今後設置予定の子ども・子育て会議での審議とともに福祉部において再編設備計画の策定を含めたこれからの幼稚園、保育園のあり方を検討することとしております。

再質問

子育て世代を迎え入れるためのイメージ

先程の質問の中で私は、子育て世代を積極的に本市に迎え入れてほしいと提案致しました。子育てしやすいまちとは、交通や生活の利便性もありますが、一番大切なことは安全で健康的に暮らせるまち、豊かな自然に恵まれていることだと考えます。

これまでは、利便性と環境は相成れないとされてきましたが、私としては本市八幡市が、子育て世代を迎え入れる為にとるべき施策として、利便性と環境の共存を図ることをまず考えるべきだと思います。

子育て世代が八幡に来たくなる様な、住みたくなる様なまちについて、どのようなイメージを持たれていますか？お伺いいたします。

再質問 答弁

* 子育て世代を迎え入れるためのイメージ

⇒ 一般に、子育て家庭が「住んでみたい」「暮らしやすい」と思える街とは、子どもをのびのび育てる自然環境なのか、子どもの将来につながる教育環境なのか、家族構成とライフスタイルによって変わるとされております。

また、妊娠期の子育て準備や良好な夫婦関係と充実した子育て生活を送ることが、こどもにとっての良い環境につながると考えられております。

子どもの数が減れば、労働生産人口が減り、社会の活力は低下します。

それをいかに防ぐかは、本市の将来像を描く上で極めて重要なポイントだと考えております。

そのため、本市のポテンシャルを活かし、子どもにとって良質な環境が提供できる総合的な子育て支援施策をより一層推進する必要があると考えております。